

第70回
気仙沼みなとまつり

報告書

開催日：令和4年8月7日（日）

気仙沼みなとまつり委員会

第70回気仙沼みなとまつり骨子

- ◎8月7日(日)【会場：港町/内湾】 11:20~20:30
- 「オープニングセレモニー」 11:20~11:50 港町特設ステージ
 - 「みなとまつりパレード出発式」 11:50~12:00 港町特設ステージ
 - 「みなとまつりパレード」 12:00~14:30 港町臨港道路
 - 「カッター競漕大会」 12:00~15:00 内湾・船着き場付近
 - 「ステージイベント」 15:00~16:30 港町特設ステージ
 - 「さんま船集魚灯披露」 18:00~20:30 港町岸壁
※協力：第八十一豊清丸

 - 「海上うんづら」 18:00~20:30 港町岸壁・気仙沼湾内
 - ・第1部：停船演技（港町岸壁への接岸）「どや節」披露
 - ・第2部：内湾での運航演技

 - 「海上打ち上げ花火」 20:00~20:30 気仙沼湾内
 - ◇「気仙沼市民と創る 夢と希望で彩る天の川イルミネーション大作戦」
11:50~20:30 南町海岸
 - ◇「気仙沼YEGインドネシアフェスティバル」※気仙沼商工会議所青年部主管事業
14:30~20:30 みしおね横丁隣
 - 「露店コーナー」 11:30~20:30 港町出漁準備岸壁
 - ☆「youtube オンライン生配信」

※港町/内湾会場では、港町臨港道路を進行し演技披露を行うパレードから、ステージイベントに繋げて、海上うんづらと迫力ある演技を魅せる。クライマックスは海上うんづらの運航、さんま船集魚灯披露、海上打ち上げ花火で盛り上げていく。

1. 特 徴

- (1) 今年のみなとまつりは、港町近辺の工事が進み、全ての行事を震災以前の会場（港町臨港道路内～内湾エリア）で行うことができる環境が整った。同会場を今年度以降も使用していくことを見据えて企画を行った。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の急拡大を受け、気仙沼みなとまつり委員会大会長と実行委員長で祭りの開催方法について協議を行い、「大はまらいんや踊り」と「打ちばやし大競演」を中止とし、8月7日（日）1日間での集約開催となった。
- (3) 4車線道路と岸壁側道路の広い会場を活用し、演者や来場客のソーシャルディスタンスを確保し、基本的な感染症対策を講じながら各行事を実施した。
- (4) 内湾海上行事として、震災前に行っていたカッター競漕大会を復活開催し、10チームがタイムを競い合った。12年ぶりの伝統行事に会場は大いに盛り上がった。
- (5) 正午からの「みなとまつりパレード」は、港町臨港道路を会場に、スタート地点をローソンみなと町店前、ゴール地点をみちのく建設工業前とするコースで実施した。スタート地点付近で気仙沼市民吹奏楽団のファンファーレを合図に菅原茂大会長、インドネシア共和国ヘリ・アフマディ駐日特命全権大使らが乗車の主催者先導車両に続き、10団体約500名が行進した。
- (6) 第70回の記念行事として、午後3時からステージイベントを行い、気仙沼にゆかりのある5団体が出演し、来場客を楽しませた。
- (7) 午後6時から（一社）気仙沼青年会議所による「海上うんづら」のどや節を皮切りに、海上での打ちばやし演奏が始まった。「さんま船集魚灯披露」では、第八十一豊清丸が実際の漁で使用する集魚灯を点灯し、夕方の海上を彩った。
- (8) 第70回記念の「海上打ち上げ花火」（芳賀火工）では、4,000発を超える花火を2台の台船から打ち上げ、例年以上に迫力のある演目となった。打ち上げに先立ち、【みなと気仙沼大使】を務める北野都さんがステージで気仙沼をテーマにした歌を披露した。

2. まつり行事内容について

<8月7日(日)>

(1) 第70回気仙沼みなとまつりオープニングセレモニー

港町に特設のまつりステージを設営して午前11時20分より開式。司会進行は、気仙沼出身フリーアナウンサーの岩手佳代子さんと（一社）気仙沼青年会議所の吉田賢治さんが務めた。

恒例の（一社）気仙沼青年会議所による勇壮な「銀鱗太鼓」がオープニングを飾った。気仙沼みなとまつり委員会会長の菅原茂市長の挨拶の後、小野寺五典衆議院議員をはじめ来賓から祝辞をいただくとともに、インドネシア共和国ヘリ・アフマディ駐日特命全権大使にも臨席いただきお言葉をいただいた。

また、来賓紹介、主催団体紹介が行われた後、株式会社大島建設の菅原哲夫氏に感謝状の贈呈を行った。同氏は40年にわたり同社が所有する台船を無償で貸与され、気仙沼青年会議所が主催する海上うんづらを支えてこられ、みなとまつりの勇壮な演出を支えていただいた功績を称えた。その後、パレードのオープニングセレモニーが行われ、テープカットによりみなとまつりが開幕した。

(2) みなとまつりパレード（参加10団体、約500名）

「みなとまつりパレード」は前回と同会場の港町臨港道路で、スタートをローソン気仙沼みなと町店前に、ゴールをみちのく建設工業前に設定した。司会進行は、岩手佳代子さんと（一社）気仙沼青年会議所の吉田賢治さんが務めた。

出発時刻の正午を前にした午前11時50分から出発式を開式した。会長、副実行委員長、主催団体長、インドネシア共和国駐日特命全権大使、来賓等によるテープカットが特設ステージ前4車線臨港道路上で行われた後、主催者パレードに参加するため、会長、インドネシア共和国駐日特命全権大使夫妻ほかが待機していた自衛隊高機動車に乗車し、スタート位置まで向かった。スタートの準備が整ったところで、気仙沼市民吹奏楽団のファンファーレを合図に先頭的主催者車両がスタートした。

打ちばやし巡行や踊りパレード、ブラスバンド、神輿渡御など恒例のパレードや趣向を凝らしたパレードが進行し、沿道に集まった観客からは、活気ある伝統の演技に大きな拍手、時には大きな笑いが起こり盛り上がりを見せた。



(3) 内湾海上行事（カッター競漕大会）

第70回大会の記念行事として、カッター競漕大会を復活させた。内湾エリアを会場に、大島汽船の運行時間の合間の時間を利用し、タイムレース形式で実施した。競技内容は震災以前に行われていた第16回大会を参考にしながら、気仙沼市役所OBで過去の大会の豊富な運営経験をもつ酒井勇一氏に協力を仰ぎ、ルールやコースを設定した。震災後初となる大会に関心が高まったことで、初出場のチームが全10チーム中4チームも集まり、新旧チームが競い合う大会となった。12年ぶりに老若男女が一丸となってカッター艇を漕ぐ姿に、観客は大いに盛り上がった。競技の結果、過去11回の出場経験を持つ「大島火消しの樁」が優勝を飾った。



(4) ステージイベント

第70回を記念して企画したステージイベントには、気仙沼にゆかりのある団体が出演した。午後3時から、インドネシアで活躍されているシンガーソングライター加藤ひろあき氏による歌唱からはじまり、鮪立と崎浜の唄い込み保存会がそれぞれの地区の伝統芸能、SCKガールズが歌とダンスを披露し会場を盛り上げた。最後は気仙沼高校ダンス部がこれまでの練習の成果を発表し、ステージイベントは幕を閉じた。ステージ付近には多くの観客が集まり、多種多様な演目を楽しんだ。また、コロナ禍でなかなか発表の機会に恵まれなかった団体が多い中、「貴重な発表の場になった」等と参加した団体からも好評の声をいただいた。

(5) さんま船集魚灯披露

平成25年第62回からご協力をいただいている、第八十一豊清丸による「さんま船集魚灯披露」は午後6時半頃から特設ステージ付近の岸壁で行われた。今年はさんま漁の実演は行われなかったが、実際のさんま漁で使用される集魚灯の明るさが夕方の臨港道路を明るく照らし、通りかかるたくさんの来場者を魅了した。



(6) 海上うんづら

(一社) 気仙沼青年会議所が主催する「海上うんづら」は、みなとまつりで大漁と海上安全を願う象徴として今年も実施された。第1部は午後6時からうんづら台船を港町岸壁に係留しての「停船演技」、第2部は午後7時から台船を内湾で周回させながら演技をする「運航演技」を実施した。近辺では第八十一豊清丸による集魚灯披露も並行して行われ、内湾を飾る船と太鼓の演奏は来場者の注目を集めた。



(7) 海上打上げ花火

気仙沼みなとまつりは今年で70回目の開催となることから、今回の花火は「“第70回記念”海上打ち上げ花火」として、祭りのフィナーレを飾った。今年も県内有数の花火業者である芳賀火工の花火師が、2台の花火台船から気仙沼の夜空に豪華絢爛な花火を打ち上げた。花火は、オープニングスターマインで開幕。4号玉、5号玉、7号玉、8号玉、10号玉（尺玉）の台船2台による対打の単発、連発打上げや花火競技会で名の知られた花火師の尺玉の打上げ、色と光の美しいジャンボスターマインなどと共に、芳賀火工が得意とする水中花火も行い、70回大会記念となる特別演出で、4,000発を打ち上げた。



(8) 露店コーナー

港町会場に、みなとまつり委員会として12年ぶりに復活した出店場所（旧海の道）を、「露店コーナー」として、24店舗が出店した。午前11時30分から開店し、好天に恵まれた今年は客足も伸び、終了時刻の午後8時30分まで港町会場の賑わいを作った。ひときわ目立っていたのは気仙沼出身のYouTuberであるオガトレとアナハゼティーも露店コーナーに出店しており、それを目当てに多くの人が列をなす様子も見られた。

3. 特別協賛行事などについて

(1) 天の川イルミネーション大作戦

6日(土)夕方から、内湾施設 PIER 7 を会場に(一社)気仙沼青年会議所がビニールハウスに装飾を施した大型のトンネルを展示した。「海」「空」「山」の3つをテーマとし、それぞれにちなんだカラフルな装飾が施されるとともに、気仙沼市内の子どもたちが願い事を書いたホヤぼーやの短冊、市内中高の美術部や福祉施設利用者の方々が生制作したオブジェなども飾られた。七夕飾りやイルミネーションなど、趣向を凝らしたカラフルなトンネルを一目見ようと多くの来場者が訪れた。また、子どもたちの書いた短冊や作品を見るために、家族連れで来場する来場者も多く見られた。



(2) インドネシアフェスティバル

みしおね横丁隣の広場を会場に、気仙沼商工会議所青年部主催のインドネシアフェスティバルが開催された。気仙沼市民、在住しているインドネシア人やその関係者などの幅広い層へ向け、様々な催しが行われた。特設ステージでは、インドネシア現地で活躍するシンガーソングライター加藤ひろあき氏によるライブをはじめ、東京ラグラグ会によるインドネシアの伝統曲紹介と合唱、バリ舞踊披露などが行われた。インドネシアのイラストマップや観光紹介ブース、ワークショップブースなどが設けられ、来場者はインドネシアの文化を間近で体感することができた。また、気仙沼市内の太鼓団体有志による太鼓演奏・虎舞の披露もあり、会場はインドネシアと日本の貴重な文化交流の場となった。東北大学との共同主催で、パラスポーツのひとつで近年注目されている「ボッチャ」体験も同会場で行われた。



4. 人 出

まつり当日の人出は、8月7日(日)が 31,000 人と、コロナ禍ではあったが、3年ぶりの開催に多くの人々が来場した。

5. オンライン視聴者数

◇YouTube での Live 配信

8月7日(日) 午前11時～午後9時

- ・同時再整回数(最大) : 908
- ・延べ再生回数 : 111,688回

※令和3年11月7日(日)「海上打ち上げ花火」

- ・同時再整回数(最大) : 590
- ・延べ再生回数 : 1,883回

6. 天 候

◇ 8月7日(日)

当日は一時雨の時間帯もあったが、何とか天気が持ち直し、日差し気温ともに厳しくならず、過ごしやすい一日となった。(最高気温 23.4度 午後6時頃の気温 23度)

7. シャトルバスほか交通機関の臨時便について

■気仙沼線 BRT

気仙沼駅発 本吉駅行の最終ダイヤ

南気仙沼駅 21:18 発(松岩・階上経由:本吉行き)

■大船渡線 BRT

内湾入口(八日町)駅 21:11 発(鹿折・唐桑経由:盛行き)

8. 出 動 (カッコ内は第68回2日間の延べ人数)

気仙沼警察署	60人(116人)
気仙沼市交通指導隊	17人(48人)
気仙沼市防犯実働隊	32人(116人)
気仙沼海上保安署	8人(10人)
気仙沼消防署(消防本部含む)	28人(48人)
気仙沼消防団	85人(120人)
気仙沼市役所	249人(372人)
(公社)気仙沼シルバー人材センター	8人(20人)
警備艇	9人(12人)
警備部会・警備会社	33人(48人)
気仙沼商工会議所	18人(34人)
早稲田大学学生ボランティア	15人(52人)
(一社)気仙沼市観光協会	10人
合 計	572人(1,007人)

9. 警備・交通規制

会場をパレード開始の正午から花火終了まで、港町臨港道路に設定したことより、一部区間（中央公民館からお魚いちばまでのホテル観洋下の道路を北進のみの片側一車線通行）を除き、午前10時30分から午後9時30分まで、会場付近一帯を車両通行禁止とした。会場近辺の来場者の動線確保と混雑緩和のため、規制区間の車両と人が交差するポイントなどにコーン・バーや警備員を配置し安全確保に努めた。

港町の岸壁については、海中転落などの危険を防止するため、近辺にコーン・バーや警備員を配置し進入禁止に努めた。また、万が一に備え、岸壁付近に救命用浮き輪やハシゴを設置した。まつり委員会の警備計画のほかに、市職員の有志やボランティアなど独自の人員を会場付近や駐車場などに配置し警備にあたった。

10. 事 故（カッコ内は第68回2日間の件数）

まつり期間中に会場付近で発生した事故等の件数は以下の通り。

- ・人身事故 0件（0件） ・物損事故 0件（1件） ・けが病人 0件（5件）
- ・遺失 3件（30件） ・拾得物 23件（45件） ・迷子 2件（3件）

気仙沼警察署や気仙沼海上保安署、気仙沼消防署ほか警備に携って頂いた各団体の協力に感謝する。

11. 清 掃

まつり会場内にエコステーションを設置し、学生ボランティアの呼びかけにより、来場者には分別の徹底やゴミの持ち帰りに協力を頂いた。

会場周辺の清掃は8月8日（月）早朝に南町・内湾地区・港町を下記の団体の協力を頂き実施した。

早朝清掃協力者

気仙沼海友会、全国海友婦人会気仙沼支部、（社）シルバー人材センター、気仙沼市役所、気仙沼商工会議所